

第1回中部圏広域地方計画協議会

日時：平成20年10月3日（金）14:00～15:35

場所：名古屋国際会議場

3号館3階 国際会議室

1. 開会

（事務局：中部圏広域地方計画推進室 荒川室長）

- ・ 会議開催にあたり国土交通大臣の挨拶を予定していたが、公務のため欠席。代理として、榊国土交通審議官より挨拶の代読を頂く。

2. 挨拶

（国土交通省：榊国土交通審議官）

- ・ 「金子国土交通大臣 挨拶」代読。
- ・ 7月に全国計画が閣議決定され、全国で協議会が設立された。
- ・ 昨日、北陸が第1回協議会を開催。全国ベースで、中部が2回目の協議会開催。
- ・ 全総から始まった計画。これまでの全総は、東京への集中から全国へ如何に分散するかという色彩が強かった。
- ・ 今回は広域ブロックの自立と東アジアの成長を取り込むことを念頭に、国全体よりも県、市町村、企業、地域が連携して取り組む、足下から取り組む発想。
- ・ 政府も連携する、県も連携する、経済界も連携する、そのような取り組みで国づくりを進めていきたいので、是非ご支援をお願いしたい。

3. 議事

1) 中部圏広域地方計画協議会の設置について（報告）

（事務局：中部圏広域地方計画推進室 荒川室長）

- ・ 挨拶

（事務局：中部圏広域地方計画推進室 石原総括副室長）

- ・ 資料1 説明

2) 中部圏広域地方計画協議会会長選出

（事務局：中部圏広域地方計画推進室 荒川室長）

- ・ 本協議会は7月31日に発足しているが、会長は規則により構成員の互選により選出となっている。
- ・ どなたか、ご推薦があればお願いしたい。

（中部経済連合会：川口会長）

- ・ 会長には、愛知県の神田知事を推薦したい。
- ・ 準備会で会長を務められており、協議会でも会議を引き続きリードして頂きたい。

⇒ (事務局：中部圏広域地方計画推進室 荒川室長)

- ・ 愛知県の神田知事を会長に推薦するご発言があったが、いかがか。

⇒ (異議なし)

⇒ (事務局：中部圏広域地方計画推進室 荒川室長)

- ・ 賛同を頂いたので、本会議の会長は神田知事にお願いしたい。
- ・ 以降の議事は会長に取り回しをお願いしたい。

(会長：愛知県 神田知事)

- ・ 先ほど榊審議官よりお話しがあったように、全国計画が 7 月に閣議決定し、いよいよ広域地方計画という段階になった。
- ・ 中部圏では、2 年前より準備会を立ち上げ、協議、意見交換を行ってきた。その結果を中間的なものとして取りまとめ、今回の協議会でお示しし、意見を伺うというのが今回の目的。
- ・ 活発な意見を頂く中で、中部圏の発展、活力、未来につながる地方計画としたい。
- ・ 皆様のご支援を頂きながら会長として取り組んでいきたい。

3) 中部圏広域地方計画について

①中部圏広域地方計画策定に向けたスケジュール(案)について

(事務局：中部圏広域地方計画推進室 石原総括副室長)

- ・ 資料 2 説明。

②中部圏広域地方計画の中間整理案について

- ・ 資料 3 は、いままで検討してきた中間整理案。文章なので、資料 4 で説明させて頂きたい。
- ・ 資料 4 説明。

(会長：愛知県 神田知事)

- ・ ただいま説明頂いた中間整理案の内容は、次の議事 4) 意見交換で頂く。
- ・ スケジュールでご不明な点等があればお願いしたい。

⇒ (意見なし)

4) 意見交換

(浜松市：鈴木市長)

- ・ 1 点目は多文化共生圏について。中間整理、リーディングプロジェクトで取り上げて

頂いている。

- ・ ニューカマーと呼ばれる南米系の方が多く、製造業の担い手となっている。
- ・ 国でも在留外国人の台帳制度などの検討が進められ、広域圏の取組も必要だが、国に対しても要望をしていく必要がある。
- ・ 浜松市も約2万人の南米系の方が居て、外国人だけでも3.3万人生活している。
- ・ ブラジルに総領事館の設置をお願いし、ようやく決定頂いた。
- ・ 先日、多文化共生センターを立ち上げ、本格的な取組を開始した。
- ・ 現在、外国人集住都市の問題のように考えられるが、インドネシアとのEPA締結など、各国との取組が進む中で、外国人が増え、全国的に広がっていくと考えている。
- ・ 先進的な取組として、国をリードしていく必要がある。
- ・ もう1点が三遠南信地域について、リーディングプロジェクトでも取り上げて頂き、大変感謝している。
- ・ 今年3月にビジョンを策定し、本格的な広域連携に取り組んでいる。是非、今後もご支援を頂きたい。
- ・ 個別具体のお願いで大変恐縮だが、骨格となる三遠南信自動車道の整備促進をお願いしたい。

(名古屋市：松原市長)

- ・ 4つのポイントから名古屋の取組を紹介させて頂きたい。
- ・ 1点目は、8月末に集中豪雨があったが、後に調べたところ、東海豪雨を受けて緊急雨水整備事業が完了したところの被害は少なく、整備途中のところは被害を受けた。
- ・ 今回、著しい被害を受けたところを中心に計画を検討して、今後、緊急的に整備を進めていく。
- ・ 都市型水害が今後頻発する恐れがあるので、ハード整備を進めていきたい。
- ・ 健康長寿が必要とされるなかで、陽子線によるがん治療施設の整備を進めていく。
- ・ 365日、24時間の小児医療の二次救急を行うことのできる病院の整備を行って行きたい。
- ・ 2つ目は、2010年に生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催される。その際、自治体として環境に優しい市民ムーブメントを起こしたい。
- ・ 3つ目は、世界に開かれた交流圏の形成のために、見てみたい、味わってみたい、体験してみたい施設を作っていくことが大事である。
- ・ 名古屋城本丸御殿の復元事業については、皆様に匠の技を見ていただけるように、建築途中も見ることができるよう仕組みづくりをしたい。
- ・ 名古屋港金城ふ頭に展開を考えているモノづくり文化交流拠点には、高速度鉄道技術の進歩を紹介するJR東海博物館が整備される予定であり、多くの方に来場いただける拠点としていきたい。
- ・ 4つ目は、名古屋大都市圏の中核機能強化について、特にメッセ機能とコンベンション機能の強化に力を入れていきたい。
- ・ メッセ機能の強化としては、ポートメッセなごや1号館を2万平米規模に建て替える。ささしまライブ24地区では、コンベンション機能を備えたホテルや大学を誘致した。

国際歓迎・交流拠点の形成を図りたい。名古屋駅と金城ふ頭を結ぶ南北の動線を活性化していきたい。

（長野県：板倉副知事）

- ・ 長野県は、この計画では、中部圏に属するが、他の区分けもあり、県民もどこの圏域に属しているかというアイデンティティが明確でなく、地域によって相当違っている。長野県はどのような区分けでも必ず端になるが、端も大切なのでよろしく願いたい。
- ・ 浜松市長からお話があったが、南信地域は東海地域に親近感を持つ地域。三遠南信のプロジェクトを推進するには、道路整備が大切になる。三遠南信自動車道の推進をお願いしたい。それが進めば自ずと交流が進む。県民も期待している。
- ・ この地域の北半分は高地で山林。涼しい気候を生かして野菜づくりを行っているが、安全・安心という観点で国際競争力のある農産物を産出できる地域と捉えて頂きたい。また、山林は低炭素社会の実現に貢献するものであり、こうした自然を守っていききたい。それを通じて夏・冬のリゾート地としてもよろしく願いたい。
- ・ 中山間地は高齢化率が高く、山林、田畑を保全する人たちが減少していくことになる。これは日本全体の国土をどうしていくのかという問題にも結びつくものであり、下流域の方の知恵や力をお借りして守っていくことも今後の課題として考えてほしい。

（岐阜県：今村課長）

- ・ 今後 10 年を見据えた長期計画を策定中。
- ・ 内陸県である岐阜県は、7つの県に接しており、県境を越えた連携強化を前面に打ち出していきたい。多様な資源を活用して全体として大きく発展していきたい。
- ・ 広域連携の効果として、全通した東海北陸自動車道により、荘川―清見の交通量が2倍以上、白川―五箇山が3倍以上と、予想を大きく上回る効果がでている。道路ネットワーク整備の重要性、効果を見た。
- ・ 東海北陸の4車線化を進めるなど、道路整備が重要。
- ・ さらに、人流・物流を活発化し、東アジアとの交流を活発化するには、道路ネットワークと港湾、空港との連携が大変重要。
- ・ 北陸圏との連携を背骨とし、日本海から太平洋に至る発展の全体構想とする必要がある。

（静岡県：大栗理事）

- ・ 広域的な観点からの地域づくりを考えるため、研究会を設置し、ポリセントリックな地域構造の形成について提言を頂いている。
- ・ 本県が目指すポリセントリックな地域構造の形成と中部圏広域地方計画が目指す「多極分散型の地域構造を基礎とした自立性の高い魅力ある圏域への発展」はほぼ同じ意味だと理解している。圏域全体として、多極型の地域づくりが進むよう、期待している。
- ・ 本県は中部圏の東端に位置するが、首都圏とのつながりを生かして中部圏全体の発展

に寄与したいと考えている。

- ・ オブザーバーとして参加している山梨県、神奈川県と連携し、富士箱根伊豆交流圏プロジェクトに取り組んでいる。
- ・ 富士山静岡空港の開港は、北陸圏を含む国内外の交流を促進するものと考えている。
- ・ 本県の取組を、リーディングプロジェクトや中部圏と他圏域との連携の中で、十分記載がなされるよう配慮をお願いしたい。

(三重県：坂野部長)

- ・ 4点お願いしたい。
- ・ 1つは「新たな公」等の概念を基本とした考え方と「美し国おこし・三重」について。
- ・ 開発基調の全総から新たな公の概念を取り入れた成熟社会型の国土形成計画は時勢にあっており、本県でも新しい時代の公や文化力を提案している。
- ・ 多様な主体が地域づくりを進めることで、地域経済活性化など、自立・持続した地域づくりを進めることが重要と考えており、これらの理念をベースとした計画として頂きたい。
- ・ 自立・持続した地域づくりとして、来年度から「美し国おこし・三重」に6年間取り組み、2014年に集大成イベントを実施する予定。
- ・ この取り組みは、地域の特色ある資源を発掘・活用した地域づくりを進めるとともに、国内外の交流連携を促進することで、地域資源の継承・創造・知名度向上を図るもの。計画での具体的名称の記載を検討頂きたい。
- ・ 次いで、「中部圏大環状軸」について。中部圏広域地方計画の将来像が「日本のロータリー」であり、「中部圏大環状軸」の考えを盛り込んで頂いているが、「中部圏大環状軸」の記載も一考頂きたい。
- ・ 一極集中でない分散型の地域構造において自立した圏域を形成するには、北陸圏や近畿圏との連携が重要であり、本県としては近畿圏との橋渡し役をしていきたい。
- ・ 3つめはリニア中央新幹線について。全国計画に明記頂いており、JR東海より首都圏ー中京圏までの整備が公表されたが、東京ー大阪間の整備によって機能発揮されるので、東京ー大阪間の全通整備を計画に記載頂きたい。
- ・ 4点目は首都機能の移転について。全国計画では重要な課題として取り上げており、中部圏は2つの地域に候補地を抱えるなど、広域地方計画でもアピールするポイントではないか。

(静岡市：深津部長)

- ・ 3つほどお願いしたい。
- ・ 静岡市は、これまで中部圏の東端であり関わりがなかったが、富士山静岡空港の開港、新東名、中部横断自動車道、清水港の拡張など中部圏全体に関わるインフラ整備が進んでいる。また、東アジア全体をターゲットとした観光交流、中山間地対策など、首都圏、神奈川県と連携した取り組みをしているので、リーディングプロジェクトで配慮頂きたい。
- ・ 2つめは、名古屋大都市圏の機能強化は理解できるが、政令市をはじめ各都市でユニ

ークな有力な取り組みが行われている。多機能分散型、圏域全体の発展にも目を配って頂きたい。

- ・ 3点目、ものづくり産業や文化の継承がリーディングプロジェクトにあげられている。
- ・ ものづくり文化では重厚長大、文化は伝承文化がターゲットとなるが、東アジアとの交流を視野にいと、本市の特徴であるプラモデルやちびまる子ちゃんのようなキャラクタービジネスがものづくりや文化継承に大きな意味を持つと思うので、配慮頂きたい。

(中部経済連合会：川口会長)

- ・ 3点ほど意見を述べたい。
- ・ 第1点として、中部圏の将来像と我々の中期計画の目標と方向性がほとんど同じ。
- ・ 中部圏の将来像にあるリングが、将来、自立した機能となる必要がある。
- ・ 次に、米国経済の影響を受け、ゆるやかな成長が厳しい状況となっており、グローバルな競争の中で勝ち残っていくためには、自立した活力ある行政システムが重要である。
- ・ 自らの意志で自立を目指す、すなわち道州制への移行を目指して行かなければならないことを改めて主張させて頂きたい。
- ・ 3点目として、中部圏の将来像を実現するためには、社会資本整備が欠かせない。
- ・ 陸海空のバランスの良い交通ネットワークを構築して頂いたが、今後も留意して頂きたいのは、高速道路ネットワークの早期整備、スーパー中核港湾の整備、中部国際空港の機能強化。これにより、日本のまんなかから世界のまんなかへ競争力を強化できる。
- ・ これからは、空港の24時間化が必須。それを支える中部国際空港の2本目滑走路が必要。その整備促進をお願いしたい。そのために、地域一丸となって利用促進を図りたい。
- ・ 社会資本整備は不可欠であり、視察に行ったロシアでは、道路渋滞が経済活動を阻害していた。

(東海商工会議所連合会：岡田会長)

- ・ 中間整理案には概ねお願いした内容が盛り込まれている。
- ・ 計画のとりまとめにおいては、個別案件的な位置づけをお願いしたい。
- ・ 東海北陸自動車道の意義は大変大きい。中部圏開発基本法から約40年を経て、やっと中部圏に背骨が入った。この絶好のタイミングに、中部圏広域地方計画をアピールできることはすばらしい。
- ・ 中部圏はグローバリゼーションの大きな影響を受けており、世界を意識した計画とする必要がある。個々に記載されているものはよいが、COP10をもう少し計画に位置づけてもらいたい。COP10は政府主催の会議だが、ローカルアクションとして民間の行動も注目を集めている。会議所としても行政などと連携しながら、様々なテーマでメッセ等を開催していきたい。
- ・ インフラの問題について、計画がグローバリゼーションに大きな影響を受けると考え

ると、セントレアの2本目滑走路が重要。グローバル化は24時間に対応することであり、空港の24時間対応は、緊急かつ不可欠。

- ・ 海について、鍋田ふ頭第3バースの新規着手が概算要求を通ったことは大変感謝しているが、中国からの船が沖待ちで待っている。グローバル化の中では、飛島ふ頭の機能強化が必要。名古屋環状2号線も取り組みが進められる。
- ・ リニア中央新幹線の機運が盛り上がり、関係する圏域の広域地方計画と関連づけをして頂き、当計画に記載頂きたい。
- ・ 観光交流は、北陸圏と一体として取り組むための一番の目玉。アジアの観光ビッグバンが起こっている中、うまく連携すれば滞在型観光コースが組める。自動車観光も十分考えられる。
- ・ 東海北陸自動車全通のタイミングを活かして、計画の各項目を着実に推進頂きたい。

(全国市長会東海市長会(岐阜市):細江会長)

- ・ 14のリーディングプロジェクトについては、特段意見はない。
- ・ 計画づくりはできているが、実現するシステムを考えないと進んでいかないのではないか。
- ・ 道州制を待って実現するのか、道州制を待たずに実現可能な計画とするのか、明確にする必要がある。例えば、ドクターヘリの越県サービスは、道州制を待たずに広域で対応するよう、早急を実現すべき。
- ・ 地方分権が進んでおり、役割分担を明確にする必要がある。
- ・ ナショナルミニマムで、道路、河川は地方分権が進む傾向にあるが、道路網は、広域観光、災害時対応、産業など、全ての分野で大変重要である。社会基盤の整備は国が先導して取り組むべき。特に河川は、平時は何事もなく整備が後回しになるが、アメリカは海兵隊が海岸保全や河川整備を行っており、ナショナルミニマムとして認識頂き、計画に盛り込んで頂きたい。
- ・ 昨年、富山市と広域都市圏協定を結んだ。観光交流や地産地消交流、防災協定などを結んだが、これを支えたのが東海北陸自動車道。
- ・ 基礎自治体として、社会資本整備は重要であり、国の取り組みとして広域地方計画に盛り込んで頂きたい。
- ・ 観光交流について。岐阜公園で信長公の館を発掘している。清洲、安土と連携して、広域観光の重要な目玉となる。世界に向けては、北陸圏とも連携を進める必要がある。

(富山県:寺林室長)

- ・ 第5章に北陸圏との連携が掲げられ、感謝している。
- ・ 東海北陸自動車道の全線開通により、富山県でも愛知ナンバーのクルマが増えており、今後の発展を大変期待している。しかし、暫定2車線であり、4車線化への課題が残っている。
- ・ 人的交流や物流、特に対岸諸国との物流の根幹をなすのは、東海北陸自動車道。4車線化に向けた活発な支援をお願いしたい。
- ・ 第5章に限らず、北陸への支援を随所にちりばめてもらいたい。

(石川県：中本次長)

- ・ 連携に係る取り組みは合同会議で述べるので、ここでは、中部圏に隣接する県として意見を述べたい。
- ・ 北陸圏と中部圏は、険しい山々で隔てられており、これまで十分な交流が行われてこなかったが、東海北陸自動車道の全線開通など広域交通基盤整備の進展により、観光、産業などの各方面で交流・連携が拡大すると期待している。実際、石川県にもかなりの中部圏ナンバーのクルマが訪れるようになった。
- ・ 国土形成計画により、両圏域は自立的に発展する圏域の形成を目指す。隣接する中部圏の発展は北陸圏の発展にも大いに関連してくる。本県としても、両圏域の交流の拡大に向け、広域観光や物流など、共通の課題について、幅広く連携して取り組んでいきたい。

(福井県：旭副知事)

- ・ 協議会の一員として、広域地方計画に関する総括的な意見を3点述べたい。
- ・ 国の発展に資する基幹的な社会資本がいつまでに整備されるのかを明記する必要がある。
- ・ 特に、北陸圏との関係では、新幹線、中部縦貫など、交通ネットワークの整備を明記し、具体的な圏域形成の方針が示されることが望ましい。
- ・ 14のリーディングプロジェクトについて、中部圏にとどまらず、隣接圏との連携をもっと盛り込むべき。それにより、中部圏の求心力が強化されるのではないかと。
- ・ 全国計画でシームレスアジアなどアジアとの連携が取り上げられている。中部圏の計画でも日本海側から太平洋側にかけて広域物流体系の構築が盛り込まれている。北陸圏は発展が見込まれる中国に近く、中国にとって重要な付加価値産業も有しているので、そのような優位性を活かした取り組みを進めて頂きたい。

(会長：愛知県 神田知事)

- ・ 重複しないように意見を述べたい。
- ・ 今回の中間整理案で、当地域を「日本のロータリー」として位置づけて頂いた。これはわかりやすく大きな意味があり、計画案のポイントだと思う。
- ・ 計画原案をつくるに当たり、具体的なイメージの展開が必要。交通ネットワークにおけるロータリー性や観光も含めた交流という切り口での展開イメージなどは、図表を用いて視覚的にわかりやすく整理して頂きたい。
- ・ リーディングプロジェクトで3～4点付け加えたい点がある。
- ・ 国際ゲートウェイ中部プロジェクトは、中部圏が世界を見据えた交流拠点となるための一丁目一番地にあたる。インフラ整備、基幹となる事業をしっかりと位置づける必要がある。
- ・ 中部国際空港の2本目滑走路の整備は、中間整理案の文言では長期的な課題という意味で、イメージが将来に向けて長すぎる印象がある。必要な整備に早期に取り組むという姿勢を打ち出す必要がある。また、県営空港、西知多道路、名古屋港、名古屋環

状2号線など、基軸となるインフラ整備も必要である。

- ・ 2番目として、まんなか巡り観光プロジェクトは、産業観光を強調する必要があるのではないかと。インバウンドの観光客にも感心が高く、武将観光をはじめ様々な観光の中でも、それ以上の観光資源としての大きさを持っている。きちんとした位置づけをお願いしたい。
- ・ 3点目として、次世代産業イノベーション。当地域の特徴はものづくりに強い地域ということに尽きるものであり、それを進展させていくのはイノベーションである。
- ・ ものづくり力の強化という観点として、愛知県では「知の拠点」づくりを産学行政で進めている。シンクロトロン光利用施設や研究開発施設の整備に取り組んでいるが、こうした取り組みは広域的にも波及効果が高く、ネットワーク化が必要であるので、記述をお願いしたい。
- ・ いきもの共生プロジェクトに係るCOP10については、中部圏知事会でも各県がご協力、ご参加頂く方向性を示して頂いた。実際に今後、実行委員会に加わってもらうことになったので、COP10は、中部圏で協力体制ができているという前提での記述をして頂きたい。
- ・ 中部圏広域地方計画は、国と地域が協働して初めて策定するプロジェクト、広域ブロック計画であり、色々な意見を汲み上げて肉付けをし、より中味の濃いものにしていく必要がある。一方、財源、法制度などどうしても国が主導権を取って頂く点もあり、具体の推進方法などもきちんと打ち出していくことが必要であるので、国の積極的な取組をお願いしたい。

5) その他

- ・ 特になし

(会長：愛知県 神田知事)

- ・ 本日頂いたご意見、これまでに事務局に頂いているご意見は、今後の計画原案づくりに向け、幹事会などで議論し、対応していきたい。事務局にはよろしくをお願いしたい。

4. 閉会

(事務局：中部地方整備局 佐藤局長)

- ・ 本日お示ししたのは、約2年間議論した、たたき台を整理したもの。
- ・ 頂いたご意見を踏まえ、今後、構成員以外の自治体、経済界、国民レベル等各層の意見を頂き、成案を整理していきたい。
- ・ よい計画が策定されるよう、今後ともご指導ご支援をお願いしたい。

以上